

板橋区防災マップ参加プロジェクト

確かめよう！  **自分ができる第一歩**

地域で作る

防災マップの 手引き

平成24年9月

200 400

災害時

わたしたちは

何ができるのでしょうか？

災害は突然やってきます。

その時に、まず自分の命を守るための『自助』の力は、まさに日頃からの**備え**にかかっています。

「備えあれば憂いなし」 地域みんなで作る、防災マップ

防災マップとは言うけれど、

すでに多くの自治体では避難所や被害想定を載せた「ハザードマップ」を作成しており、住民に配布されています。しかし、実際には地図が小さくて避難路がよく見えない、古い情報がそのまま実感がない、そもそも地図の見方がよく分からないなど、災害時の役に立つのは難しく、うまく活用されていないのが現状です。

なぜ、自分たちで作るのですか？

ではどうして、行政でなく地域住民が作成する必要があるのでしょうか？それは、自ら汗をかき考えながら作ることで、災害に対する知識・意識が高まる(自助)、ご近所さんと知り合いになり助け合いが生まれる(共助)、予想被害を自分の身に置き換えることで地図に未だ足りない情報がすぐに分かり、継続的に改善できる(公助)などのメリットがあるからです。

沢山の情報を一枚の地図に

火災、地震、水害、交通、犯罪など、それぞれの地域やまちで抱える不安は違います。自分たちの地域で必要としている災害・危険情報(=ハザード)を集め、自分たちの一番分かりやすい形で表現し、イザ！災害が発生した時のために備える。それが、板橋区防災マップ参加プロジェクトです。

防災マップづくりのための4ステップ

実は、防災マップの作成はそれほど難しい作業ではありません。また、よく心配される費用や時間の負担も意外なほど掛かりません。下記の4ステップに沿って、まわりの方と協力しながら楽しく作っていきましょう。

ステップ	目的	内容	詳細
ステップ1	知る	地域について調べる 災害について調べる	•住民構成、土地の高低差、被害の歴史、災害頻度、避難場所の位置をつかむ。
ステップ2	想定する	地域で取り組む課題を設定する	•天候、時間、範囲、年齢の違いによる災害対策の違いを考慮する。
ステップ3	考える	地図を作成する 白地図からデジタル地図へ	•まち歩き・書き込み・入力 議論・修正を繰り返すことで、知識と意識を深める。
ステップ4	備える	作成した地図を活用する	•印刷して地域に配布し、地図をもとに防災訓練を行う。 •e防災マップコンテストに応募するなどして共通の目標を持ち地域の絆を深める。 •更新を続け、継続して取り組むことにより自主防災組織の強化と防災リーダー育成を目指す。

それでは、マップづくりでまちづくり！
自分でできる第一歩を踏み出しましょう。

☆e防災マップについて

この手引きは、独立行政法人防災科学技術研究所のe防災マップ(インターネット上のデジタル地図)を基にして説明しております。このデジタル地図では、インターネット上でどのパソコンからも管理と更新を行うことができ、毎年全国規模のコンテストが開催されています。今回は“防災”をテーマにしておりますが、地震、水害、火災などの災害対策だけでなく、交通安全・防犯、また商店街振興のまちおこし等にも転用できる手引きとなるよう心がけています。ぜひお好みのテーマに置き換えて積極的にご活用下さい。

e防災マップコンテスト2012 <http://emap2012.bosai-contest.jp>



ステップ1 知る:地域を調べる・災害を調べる

地震、火災、水害、台風など、地域ではどんな災害が起きる可能性があるのかを調べてみましょう。

調べ方について

- …家族、友人、仲間とともに、話し合う。
- …町会、学校などで、アンケートを行う。
- …過去の被災の歴史をお年寄りに確認する。
- …区の地域防災計画やハザードマップを見る。
- …インターネットや社会統計で詳しく調べる。

などがあります。ここでは、柔軟な発想で様々な可能性をあげていきましょう。自分の立場だけでなく、発災時のその時間・その場所にいる、すべての人の状況を推測してあげるのがポイントです。

そのためには、町会・自治会・PTAだけでなく、同じ災害に不安を抱えている幅広い年代やグループに声をかけて、活動に巻き込んでいくことが大切です。それによって多くの課題、問題が浮かび上がり、正確で柔軟な情報とアイデアが集まるでしょう。

広域避難所が河川敷になってるけど、川が氾濫したらどこに逃げるの？

私の家の周辺はとにかく木造家屋が密集していて、隣のおじさんの寝タバコが心配！！



この辺りの地名は水に関する名前が多いよね。

3. 11の時、僕はちょうど家に帰る途中だったんだ。あのとき雨が降っていたら？火事が起こっていたら？家と学校とどちらに行くべきだったのかな。

それでは、以下の表を用いて、身の回りで起こりうる自然災害を確認し、地域課題を絞っていきましょう。

身の回りで起こりうる災害

見積もり	災害種類	地震	火災	河川氾濫	ゲリラ豪雨	台風 (雨・風)	ほか ()
	どれくらいの頻度での発生か						
今すぐ							
1年以内							
2~5年							
5~10年							
いつの日か							
被害の程度を見積もる							
人命	大← 被害程度 →小						
建物	大← 被害程度 →小						
都市機能	大← 被害程度 →小						
復旧	大← 被害程度 →小						
発災する時間・気象条件							
季節	春・夏・秋・冬						
曜日	平日・休日						
時間	朝・昼・夕・夜						
天気	晴・曇・雨・風						
あなたの想定する危険度							
高← 災害頻度×被害想定 →小							
テーマとする災害を選ぶ		をテーマに取り組みます					